

Sina Cup 2009 中国・日本・韓国キールボート親善レガッタ 報告書

JSAF 国際委員会 小林 昇

第二回となる表記の大会が、中国山東省日照市のウオータースポーツベースにて9月4日～7日まで開催され、私は JSAF 代表として、又日本から参加の神戸大学学生チームの一員として参加した。

レースの概要は、

主催：中国ヨット連盟・日照市・日照ヨットクラブ

期日：2009年9月4日～7日

場所：日照市ウオータースポーツベース

クラス：フライングタイガークラス(10隻)

オープンキールボートクラス(香港ハンディキャップルール使用)

で、日本からは在青島日本人チームと神戸大学外洋帆走同好会チームが参加した。

また、審判として柴沼克己氏が昨年に引き続き参加された。



レース艇係留風景

本大会は、水上スポーツの振興を推進する日照市(青島の約150km南に位置する)が、過去に470やヨーロッパクラスの世界選手権大会の開催実績を持ち近代的なヨットハーバー機能を持つウオータースポーツセンターにて開催するもので、中・日・韓3国の親善をセーリングを通じて果たし、日照市のセーリング振興のために日本や韓国の協力も得たいという事から開催されている。又、北京オリンピックのセーリング種目の開催が青島で実施されたことで、国内外に対しての日照市のアピールという意味合いも強く含まれているように感じた。

日照市のウオーターベースは、470、レーザー、ウインドサーフィン、OP 級といったオリンピックや国際クラスのディンギーの活動は盛んに行われているが、クルーザーのポンツーンバースも完備されてはいるものの係留数は少なく、今回の大会でも青島セーリングセンターの所有艇であるフライングタイガークラス14隻をチャーターしてこれを回航していた。オープンクラスのクルーザーも青島や上海などからの参加艇で占められていた。

フライングタイガー10 クラス

フライングタイガーは、2007年に ISAF の国際ワンデザインクラスに承認されているワンデザインクラスボートであり、10mの全長を持つ計排水量のスポーツボートで中国にて建造されている。参加者には主催者が用意する10艇が抽選によって割り当てられ、昨年は維持管理状態の悪い艇も多く、レース前の整備や艀装改善、船底清掃までの作業を余儀なくされたようで、それなりの覚悟と準備で望んだが今回は青島セーリングセンターが10隻の新艇を買い入れており、それが使用されたので大きな問題は無かった。在青島日本人チームは、北京オリンピックの際に日本セーリングチームが多大なお世話を受けた経緯があり、日

常は WETA というトリマランディングーでセーリングを楽しまれている。キールボートでの本格的なレースは初めてということであったが、レースを重ねるうちに艇にも慣れて最終日の強風のなかで順位を上げられた。神戸大学の学生チームは J-24 を使ったセーリングの活動を行い、また大学で授業に使用する44フィートクルーザーでのクルージングやレースを楽しむ同好会のチームで30名余りの部員の中から上級生を中心に選抜された6名と山下先生が参加された。この中には中国人在校生が1名含まれ、彼はこれを機会にセーリングを始めクルーとして通訳として大変素晴らしい働きを見せてくれた。

レースは1日2レースの3日間6レースが行われ、上下4レグのコースであった。中国5艇・韓国3艇・日本から2艇の10隻で、日本にも3艇の枠があったが、2隻参加となったので、中国枠が増やされた。中国は、上海からのチームが4つあり、中にはヨーロッパ人の混合チームも含まれ、国際的な雰囲気であった。レースは韓国2チームが6レースを全てトップで飾り優勝し、韓国1チームを振り切って神戸大学が2位となった。不慣れな艇と国際レースという中で好成績であったと思われる。在青島日本人チームは、7位となったが、ジェネカーの操作などに慣れられればもっと上位に食い込める可能性があり十分に健闘された。

オープンキールボートクラス

レースノートでは IRC クラスの記述もあったが現実的には IRC 証書を持つ艇は無く、香港ハンディキャップルールを使ってのレースで15隻が参加していた。この中にはフライングタイガーが4隻、ベネトー40.7・ジャンー42、中国で日本人ビルダーが作っている26フィートの新艇が2隻、ロシアからのクルージング艇などが含まれていた。こちらは、トラペゾイド的なコースで6レースが行われ、優勝したのはベネトー40.7で、これはカーボンのレーシングセールを張っていた。2位は上記の26フィート艇で、フライングタイガーに混じって走っており健闘しての2位であった。総じてレースレベルはまだまだ低い印象であった。

今回のレースから、1位に賞金1万ドルが賞に加えられる事になった。韓国の主要な外洋艇レースは賞金が出る傾向を強めている。この是非についてはいろんな考えがあると思われるが、ヨットレース振興段階において参加の促進や興味を引き付ける目的は果たせるであろうが、レースにおけるスポーツマンシップの涵養などの面では問題の起きる部分もあり、議論が必要であろう。個人的に、賞金の予算があるならせめてその半分を国外の参加者への旅費援助に当てるような考慮を検討するようお願いしておいた。

レースの運営全体から見ると、帆走指示書の交付が公示どおりの期日に実施されず、記述もRRSスタンダードと相違している等の事があり、それらの是正に関しては柴沼氏が昨年度より指導してこられたが実効は十分ではないようだ。レース中の風の振れに合わせたマークの打ち変えも実施されず競馬レースとなった事もあり、水上運営についても改善されるべき事もある。日照市体育局の受け入れ歓迎の姿勢や、通訳の対応をはじめ、レセプションなどは完璧に行われ参加者への気遣いは素晴らしいものであった。貸与艇についても係りの人が燃料補給などの対応もしてくれたり、昨年より改善されている事も多いと聞いた。それ故に、レース運営全体のレベルアップが今後は望まれる。

レース終了後、青島に移動しオリンピックハーバーや中国海洋大学の見学などを神戸大学の学生諸君と行った。オリンピックハーバーは青島市街の景観と共に予想の域を大きく超えた立派なものであった。セーリングスポーツ振興に向けての中国の姿勢や投資は私個人の創造を大きく超えたもので、中国のセーリング文化の急速な進展を予感させるものであった。国威発揚の競技セーリングだけでなく、市民にセーリングの機会を与えるイベントも開催されていると聞いた。

この大会を、今後5年は日照市で開催したいという方針も発表された。今回は日本から2チームのみの参加で終わったが、今後の日本チームの選抜に関しても考慮が必要となる。例としては、在青島日本人チームと学生選抜チーム、及び公募の社会人チームの枠を設定するのも一案だと考える。今回、韓国も学生チームを1つ出しており、日韓の学生交流には見るべきものがあり今後学生チームを必ず各国から出すという提案も面白いと思われる。

この大会がもたらすセーリングを通じた国際親善の意味と、アジアにおけるセーリング文化の先進国である日本が今後どのようにこれらの国と係わっていくべきか、ということを実際に考えねばならない。

以 上



神戸大学チーム



在中国日本チーム

[フライングタイガークラスの成績表](#)